

学習環境充実に向けての再編

市教育委員会は1月15日から25日まで、市内9町域で「学校再編に係る地域座談会」を開催し、小中学生の保護者、地域住民合わせて251人が出席しました。
現在、全国的に少子化が進み、本市も合併以降、人口が減少しています。市内小学校の児童数は、今後6年間で500人以上減ると推計されています。

このような状況から、皆さんに市の学習環境の現状と学校再編の基本的な考え方を説明。それらへの意見等を取りまとめ、学校再編基本構想策定に向けて準備を進めています。

地域座談会出席者数

会場	開催日	出席者数
迫公民館	1月15日	40人
登米公民館	1月16日	16人
東和総合支所	1月17日	42人
宝江ふれあいセンター	1月18日	50人
豊里公民館	1月19日	12人
米山農村環境改善センター	1月22日	25人
石越公民館	1月23日	18人
南方公民館	1月24日	27人
津山老人福祉センター	1月25日	21人
合計		251人

児童・生徒のための学校づくり 地域の意見も取り入れ再編

本市の昨年5月現在の小学校児童数は3902人ですが、6年後には3375人と、500人以上減少する見込みです。児童数が減っていくことによって、教育活動に大きな変化が生じてきます。

児童数が少なくても多くても、それぞれのメリット、デメリットがあります。本市では、基本的な考え方の通り、児童生徒が多様な考え方に触れ、

多くの仲間と切磋琢磨しながら成長していける学校づくりを目指していきたいと考えています。

このようなことから、子どもたちの学習環境の充実に向けて、学校再編基本構想を策定することとなりました。基本構想の準備に当たり、児童生徒の保護者だけでなく、地域の皆さんから意見を聴きました。現在、座談会で出た意見を取りまとめ、本年中には基本構想に反映させ、本年中にはその内容を皆さんに示して、意見交換会を実施する予定です。

■学校再編基本方針(基本的な考え方)の要点

〈目指す学校像〉児童生徒が多様な考えに触れ、切磋琢磨することで社会の形成者としての基本的資質を伸ばすことのできる学校
〈適正規模〉小学校：12～24学級／中学校：6～18学級／クラス替えができる各学年2学級以上
〈適正配置〉小学校：町域に1校は配置／中学校：当面は町域に1校は配置しますが、今後は町域を超えた再編も検討
〈通学時間〉スクールバスを活用した場合を含め、おおむね1時間以内

市内小学校の児童数

町域	小学校	2017年5月末	2023年の
		児童数	児童数
迫	佐沼	683人	751人
	新田	137人	120人
	北方	199人	172人
登米	登米	206人	171人
	米谷	109人	82人
	米錦	70人	51人
東和	米川	66人	59人
	石森	117人	100人
	加賀野	316人	243人
中田	宝江	107人	127人
	上沼	183人	113人
	浅水	93人	73人
豊里	豊里	338人	296人
	中津山	165人	137人
	米岡	132人	84人
米山	米山東	177人	122人
	石越	220人	179人
	南方	188人	148人
南方	西郷	97人	83人
	東郷	146人	167人
	柳津	81人	54人
津山	津山	72人	43人
	計	22校	3902人
			3375人

学校再編の基本的考え方

Q どのように再編を進める見通しなのか。

A 地域座談会での意見等を参考に、より良い教育環境を目指して「学校再編基本構想」を平成30年度中に策定する予定です。町域ごとの理想とする学校の在り方をまとめます。基本構想策定後、内容を皆さんに示して、意見交換会を実施したいと考えています。

Q 再編準備期間は、どれくらいだと望ましいか。

A 再編が決まり、再編準備委員会を設立してから、2年ほど時間あるのが望ましいと考えています。

Q 小学校を再編する場合、中心地区に新しい校舎を建てればよいと思うが。

A 学校施設に大きな損傷がなければ、耐用年数65年を基準に有効活用していきたいと考えています。

Q 子どもたちの通学時間を1時間以内にする根拠は何か。

A 通学時間1時間以内は、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を参考にしています。かなり広い町域もあり、その中で小学校の再編をする、通学距離が基準の4倍を大きく超えることが考えられます。スクールバスを使っても、通学時間はおよそ1時間以内としています。

す。子どもたちの通学に過度の負担とならないよう、スクールバスの運行経路を工夫することなどを考えていきます。

Q 再編後は、放課後や長期休業時の子どもたちの受け入れ態勢をどのように考えているか。

A 放課後や長期休業時の子どもたちの居場所を、放課後子ども教室、放課後児童クラブや児童館が主なものです。再編後、児童数が増えた場合も、放課後子ども教室などの各種子育て支援策を活用して、受け入れ態勢を整えていきたいと思っています。

Q やむを得ず統合した場合に、廃校になった学校施設の活用計画をしっかりと考えてほしい。

A 統合後の学校施設の活用については、地域の皆さんと真剣に考えていかなければならない課題です。全国の事例を調べているところですが、新たな活用方法なども考え、皆さんに示していきたいと思っています。

学校運営について

Q 子どもたちを、安心して任せられる学校になってほしい。教育の質の向上はどう考えているか。

A 教員の指導力を高めるため、昨年度から業務改善

加速事業に取り組んでいます。本年度は、学力学習状況調査の結果が全国トップクラスの秋田県代市で、市内小中の校長が視察研修をしました。また、能代市から指導力に定評のある教員を招き、市内全教員を対象に研修会を開催し、模擬授業を実施したところです。市内全ての学校で、教員の指導力向上に向けて取り組んでいます。

Q 現在、コミュニティ・スクールに取り組んでいる。より充実した学習環境になるよう、コミュニティ協議会をパートナーにしてほしい。

A この意見を他の学校にも伝え、本市のコミュニティ・スクールが効果的に機能できるようにしていきたいと思っています。

地域振興について

Q 地域から小学校がなくなると、地域全体の活気が失われる。統合後の地域活性化について、どのように考えているか。

A 地域活性化は、教育委員会だけで進められることではありません。他部署等と連携しながら進めていきます。これは、学校再編を進めていく中で、協議が必要課題だと認識しています。



児童生徒の保護者だけでなく、多くの地域住民が出席し、意見交換をしていました。座談会だけでなく、再編に向けての情報は、市公式ホームページなどで随時発信していきます。

出席者に聴く



阿部和広さん(48)
津山町石貝

小学校のPTA役員をしています。今回は、地域の人たちがどれだけ関心を持ってきているか気になっていました。子どもたちのためにも、学校再編は必要です。地域の学校なので、多くの人たちが関わって、進めていくべきだと思います。

